

# 現代における危機と再生

うちやま たかし

**講師：哲学者 内山 節 氏**

&lt;プロフィール&gt;

東京大学大学院人文社会系研究科・文学部・兼任講師、

東京大学農学部・兼任講師、

立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授、

三重大学生物資源学部・兼任講師、

NPO法人・森づくりフォーラム代表理事など。

群馬県では「第16回国民文化祭・ぐんま2001」総合プロデューサー、「一郷一学塾」塾頭などをつとめる。

1950年、東京世田谷区生まれ。父は映画プロデューサー。

子どもの頃から魚釣りをしていた。

1968年東京都立新宿高校卒。大学には進学せず。

1968年より妻・竹内静子（労働社会学・毎日新聞記者）と暮らす。

1972年より執筆活動。その頃から群馬県の山村・上野村に長期滞在するようになり、やがて東京との間を往復する半村民になる。

現在は、村では5畝（150坪）の畑と1ヘクタールの森のある古い農家で暮らす。

**■日時** 2011（平成23）年10月6日（木）18時～20時**■会場** 高知共済会館 COMMUNITY SQUARE 3F 大ホール「桜」

〒780-0870 高知県高知市本町5丁目3-20

TEL : 088-823-3211 <http://www.kochi-cs.jp/>**■主催（お問い合わせ）** 社団法人高知県自治研究センター（高知市鷹匠町2-5-47）<http://www.kochi-jichiken.jp/> 電話 088-822-6460**※入場無料です。**

本年3月1日に、哲学者、内山節（うちやま たかし）氏を招聘し、「ローカルな世界から創造する『温かいお金』」と題して、貨幣価値とは次元の異なる関係が付与され、人と人の関係のなかで使用される「温かいお金」の重要性についてお話をいただきました。ところがその10日後、東日本大震災が発生しました。

この震災を内山氏はどのように感じ、何を見つめてきたのでしょうか。

このたび半年振りに内山氏をお招きし、巨大システム依存型社会の危険性、個人の社会からコミュニティの時代へ、あるいは都市の価値から農山漁村の価値へなど、すでに始まっていた変化について語っていただくなかで、震災からの復興と日本の再生について考えたいと思います。